

村上市立平林小学校 学校だより

令和4年1月13日



教育目標

わかみどり

ともにのびる子 ともにひらく子

<http://hirabayashi-e.murakami.ed.jp>



一年の計は元旦にあり

明けましておめでとうございます



pixta.jp - 81782485

昨年中は新型コロナウイルス感染予防対策の中、保護者の皆様、また地域の皆様から平林小学校の教育活動にご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。教育活動が制限される中、子どもたちの校外活動や体験活動を中止することなく実施できたのも皆様のご理解とご協力のおかげと感謝しております。

今年も子どもたち一人一人が自分の目標に向かって学んでいくことを職員が一丸となって支え励ましていく所存です。どうかよろしく願いいたします。

2022年が始まりました。「一年の計は元旦にあり」という諺を聞いたことがあると思います。これは一年間の目標や計画は、元日に決めるのがよいということ、何事も最初に計画や準備が大切であり、始めの計画ができていないと物事はうまくいかないという意味の諺です。「一年の計は元旦にあり」のことばの意味や由来については2つの説があります。1つ目の説は戦国時代の武将である毛利元就のことば。2つ目の説は、中国の書物「月令広義」（げつりょうこうぎ）の一節です。

毛利元就の説は「一年の計は元旦にあり、一月の計は朔（ついたち）にあり、一日の計は鶏鳴（一番鶏が鳴く早朝）にあり。」毛利元就は、何事も最初が肝心であることを意図したといえます。これについて、こんな逸話があります。{元旦の朝、祝いの膳を勧める家臣に対してこれを断った元就は、次のように家臣に言ったと伝えられています。「世の愚かな者どもは、恵方を拝んで、とそを飲み、長寿・子孫繁栄を祝って浮かれているが、元旦はそんな暢気（のんき）なものではなく、年の初めに一年の事をじっくり考える。それが本当の祝いというものである。}

中国の書物「月令広義」は中国の伝統的な年中行事、儀式、しきたりなどを解説した書物で、それによると「一日の計は晨（あした＝朝）にあり、一年の計は春にあり」とあり、まとめて「一年の計は元旦にあり」といったそうです。そして、「一生の計は勤にあり」「一家の計は身にあり」と続きます。つまり、まじめに努力することで、人生が決まり、身の振り方や生き方で、一家の将来が決まる、という意味です。

さて、子どもたちは新年を迎え、どのような夢や目標をもったのでしょうか。どのような夢や目標でも、私たちはそれをしっかりと受け止め、実現できるよう子どもたち一人一人に寄り添い支えていきます。

校長 高橋 明

